

福井大学大学院教育学研究科
教職開発専攻

教職大学院

Department of Professional Development of Teachers,
Graduate School of Education, University of Fukui



学校のリーダーを育て
学校の課題を解決し
高い教師力を目指す教職大学院



優れた教師教育機能の さらなる発展を

学長 眞弓 光文

本学教職大学院の教育方法は、「福井方式」として全国レベルで高く評価されています。他大学の教員養成系学部や教育委員会等とこれまで以上に連携を強めて、その優れた教

師教育機能をさらに発展させ、日本の教師教育の新たな地平を開き、将来を担う子どもたちをきちんと教育することのできる優れた教師力を持った教員を養成して、社会に貢献されることを期待しています。



学校現場での実践を 通して協働の学びを

教育学研究科長 中田 隆二

福井大学教職大学院は、学校を実践的学びの拠点とするユニークな方式を採用しています。現職のまま大学院で学ぶ先生にとっては、勤務校にしながら具体的課題の解決を題材として、大学院での学びを行うこ

とができます。他方、学部から直接大学院に進む学生にとっては、学校現場での実習に基づいた実践的な学びを通して、学校全体を見渡す幅広い視野を持つことができます。実践を通して学び続ける教員、さらには教師集団の育成を通じた、新しい学校づくりに取り組みたい方には是非進学をおすすめします。



推薦の言葉

わたしたちも応援します。



福井経済同友会 代表幹事

八木 誠一郎

社会構造が大きく変化する中、どのように能動的に社会と交わり担い手になっていくかが私達に課せられた大切な命題です。その基本となる人間力の涵養に果たす福井大学教職大学院の役割は重要であり、更なる発展を心から期待しています。



福井県教育委員会 教育長

林 雅則

21世紀の社会を支える子どもたちの人間力を育てるには、教員の専門的力量的向上が不可欠です。すでに68名の現職教員が修了し、教育現場でリーダーとして活躍しています。今後も高度な専門性と実践力を備えた教員の養成と研修を期待いたします。



福井市教育委員会 教育長
(福井県都市教育長協議会会長)

内田 高義

学校・家庭・地域が力を合わせ、社会全体で子どもたちの「生きる力」をはぐくむことが求められています。そのために、福井大学教職大学院で協働的な実践研究を進めながら、教員としての専門的力量的向上させることを期待いたします。



越前町教育委員会 教育長
(福井県町教育長会会長)

荒 明義

これからの社会を生き抜く確かな力を持った子どもたちをはぐくむことが強く求められています。福井大学教職大学院で研鑽を深められ、子どもとともに学び続ける教師として、その資質と能力を高めていただきたいと思います。

教職大学院設置の目的

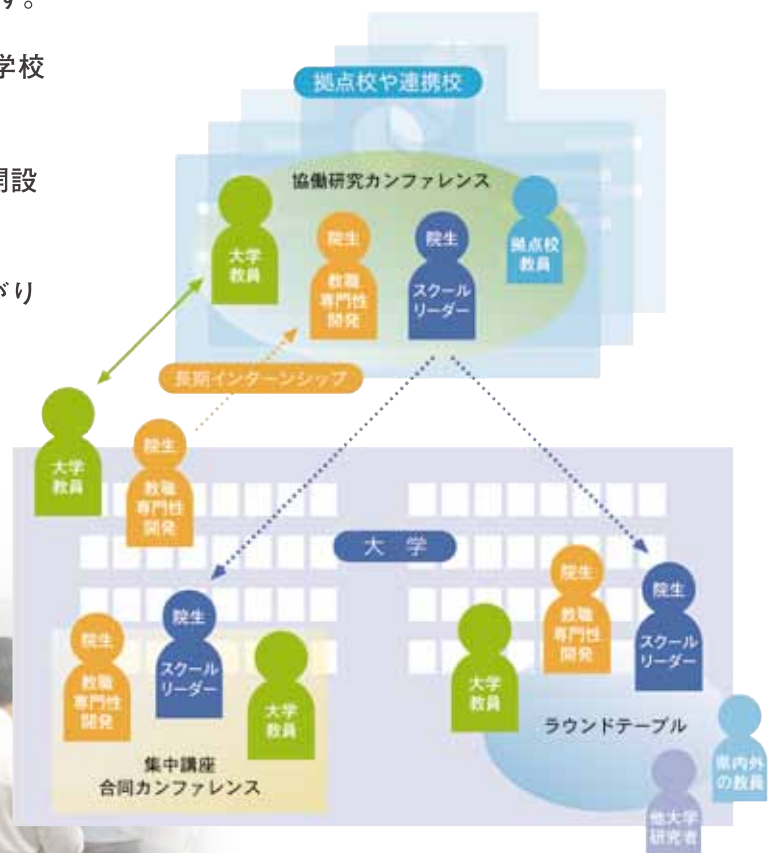
変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、学校には多くのことが求められています。家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量的の向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量的の開発を目的として、教職大学院を開設しました。

5つの特徴

1. 今日的課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
2. 大学教員がチームでバックアップします。
3. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場や県の教育研究機関へ出向きます。
4. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
5. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

教育課程の概要

- 学位 …………… 教職修士（専門職）
※新しい学位の授与
- 修業年限 …………… 原則として2年
(1年を許可する場合もある)
- 必要修得単位… 学校における実習
共通科目、コース別選択科目
計45単位以上を取得すること
- 入学定員 …………… **30名**
教職専門性開発コース 15名
学部進学者(臨時任用教員を含む)
スクールリーダー養成コース 15名
現職教員
- 募集要項 …………… 学生募集要項は6月に発表予定



教育課程の特色

学校拠点の協働実践研究プロジェクト

学校を拠点とし、学校が抱える課題について大学と学校が協働して取り組みます。

教職専門性の開発・発展を支援

「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを新たに創り出していきます。

長期実践研究報告の作成

修士論文は課しませんが、長期実践研究報告の作成と発表を行います。

1年間の学校における実習

学校のサイクルに沿って、1年間にわたって行います。ただし、スクールリーダー養成コースの「スクールリーダー実習Ⅰ」(7単位)については、所定の条件を満たす場合に免除が認められることがあります。

事例研究中心の共通科目

「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、学校拠点の協働研究・カンファレンス・事例研究を通して学びます。

コース別選択科目

「カリキュラムと授業」「子どもの成長発達支援」「コミュニティとしての学校」の3つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

修了生の声

鯖江市立待小学校
教諭 岩堀 美雪



教職大学院に通って「協働」ということをとても意識するようになりました。自分がこれまで大勢の先生方に支えていただいたことに改めて気づき、感謝の気持ちでいっぱいです。学校という職場は決して一人では成り立ちません。今後も、同僚と「協働」し、学び合っていきたいです。大好きな子どもたちの笑顔に出会うために。

修了生の声

福井県教育研究所
主任(指導主事) 金森 誠



現在、ミドルステップアップ研修の担当をしています。この研修では、受講者の学校での実践を研修の中心におき、研究所員がその実践を支援する「学校拠点方式」を採用しています。このスタイルは、福井大学教職大学院と同じものです。この研修運営には、担当する所員の力量向上が不可欠なことから、所内での勉強会である「協働研究会」の重要性も高まっています。今後も、教職大学院の御指導を仰ぎ、嶺南教育事務所・特別支援教育センターとも連携を一層深めながら研鑽に励みたいと考えています。

修了生の声

若狭町立三方中学校
教諭 永田 恭子



4月から中学校で勤務しています。初めての担任、教科主任、部活動副顧問と、様々な役割をいただいて学び続けている日々ですが、大学院での2年間現場で実習しながら学んだことが大きな自信となって活きていることを実感しています。どんなことにも積極的に挑戦し、先生方と協力しながら生徒を支えていく姿勢を大切にしながら、これからも過ごしていきたいと思います。

教育課程の構成

教職専門性 開発コース	スクールリーダー 養成コース*	学年履修単位(目安)	
		1年次	2年次
学校における実習(10単位)		10単位	0単位
共通科目(20単位)		14単位	6単位
コース別選択科目(15単位)		2単位	13単位
合計(45単位)		26単位	19単位

※ 基本的に2年間を原則とするが、1年の学修によって所要の単位をすべて取得した場合の短期修了も認める。

授業科目例

共通科目例

1. カリキュラムのデザインの実践事例研究
2. 授業づくりの長期実践事例研究
3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究
4. 学校協働組織マネジメント
5. 教師の実践的力量形成の課題と実践

コース別選択科目例

1. カリキュラム・授業改革マネジメント学校拠点長期協働実践プロジェクト
2. 児童生徒の成長・発達支援学校拠点長期協働実践プロジェクト
3. コミュニティとしての学校と教師の力量形成学校拠点長期協働実践プロジェクト

※ いずれの科目も3, 4人の大学教員がチームで担当します。

教職大学院の1年

教職専門性開発コース



在学生の声

教職専門性開発コース
2年 齋藤 宏

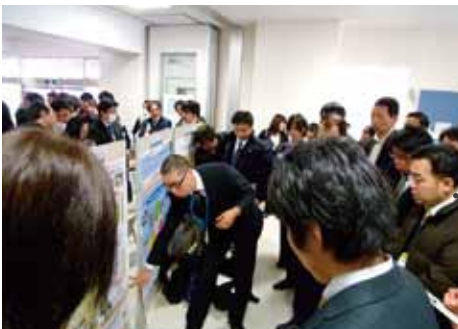
教師としての力量を高めるために、インターン先での実践と大学院での週1,月1のカンファレンスによる省察を繰り返し行う中で、「今求められている教師力」を身につけることができます。現職の先生方と最新の理論をやり取りする中で、実践ありきの理論を体感し、それを次の実践に活かし、また振り返るといような「実践と理論の往還」の中で、より自分の成長を感じることができます。



在学生の声

教職専門性開発コース
2年 中村 諒

教師の職務をインターンという形で総体的に学び、その中で生まれる葛藤や生徒との歩みをカンファレンス等の形で省察します。これらを通して、学校現場のあらゆる出来事の意義や課題に気付き、新たな視点で現場へ還元するような理論と実践の調和の中で、日々学んでおります。



スクールリーダー養成コース



在学生の声

福井市中藤小学校
教諭 高間 恵美

新築移転開校した大きく新しい学校で、小学校における「新しい学習スタイル」を考えることが私の研究テーマです。本校の研究主題である「一人一人が輝き、共に学び合う」理想の姿が、教職大学院にはあります。試行錯誤の実践に理論という支えを与えてくださる大学院スタッフや院生の仲間との学びは、本当に充実しています。



在学生の声

福井県立武生東高校
教諭 野坂 智裕

この大学院の特徴は、教育現場と密接に関わりを持ちながら研究を進めていくことを主眼にしている点と、私たち一人一人の変化に粘り強く付き合ってくれる点です。我々が抱える様々な問題について、教授たちはともに考えるという姿勢で話し合いに参加し、時には実際に我々の勤務校にお見えになって実情を把握したうえで示唆に富んだアドバイスを与えてくれます。先生方との校種を超えたつながりや全国の先生との交流の場もあり、充実した時間を過ごしています。

4 April

開講式

合同カンファレンス

5 May

6 June

ラウンドテーブル

授業実践

7 July

集中講座

8 August

9 September

10 October

11 November

12 December

集中講座

1 January

2 February

長期実践研究報告会

3 March

ラウンドテーブル

学位記伝達式

教職大学院の教員紹介 (50音順)

 <p>准教授 稲垣 良介 INAGAKI Ryouzuke</p> <p>専門は保健体育科教育学です。学習者の実態・現況を直視した実学的内容の伴う授業の在り方を考究しています。学校体育における水難防止教育に関心をもっています。</p>	 <p>客員教授 巨田 尚彦 OTA Takahiko</p> <p>激しく変化する現代社会において、教師に求められるものは多様化しています。一人一人の子どもたちが生き生きとした学校生活を送られるよう、学校教育の様々なテーマについて、皆さんと共に探究していきたいと思っています。</p>	 <p>准教授 岸野 麻衣 KISHINO Mai</p> <p>発達臨床心理学を専門にしています。幼児期から青年期にかけての子どもの発達を視野に入れた授業・学校づくりと一緒に考えて行けたらと思っています。</p>	 <p>准教授 木村 優 KIMURA Yuu</p> <p>専門は教育方法学・教育心理学です。教職専門性について、授業実践にもつづいた探究を進めています。特に、教師が授業中に経験し表出する情動に着目し、「情動の実践家」という新たな教職の専門家像の構築を目指しています。</p>	 <p>准教授 小林真由美 KOBAYASHI Mayumi</p> <p>実務家教員として学校現場と大学を繋いで「実践に生きる研究」に取り組んでいます。熱心な福井の先生方の「学び続けたい」という意欲に少しでもご支援できればと思っています。そして私自身もここでの貴重な経験によって、成長していきたいと思っています。</p>
 <p>講師 笹原 未来 SASAHARA Miku</p> <p>専門は特別支援教育で、主にコミュニケーションや探索活動をテーマとした実践研究を行っています。より良い教育的かかわり合いの在り方、授業づくりについて、問い続け学びを深めていきたいと考えています。</p>	 <p>特命助教 杉山 晋平 SUGIYAMA Shimpei</p> <p>専門は社会教育です。様々な実践場面における外国人・帰国定住者の子ども・若者たちの学習プロセスを研究しています。実践と研究の往還から、皆さんと共に現場の問いを探究していきたいと思っています。</p>	 <p>客員教授 玉木 洋 TAMAKI Yo</p> <p>価値創造とこれを支える協働組織づくりは、企業経営も学校経営も共通の課題です。「顧客本位・社員(教職員)重視・独自能力・社会との調和」の考えのもと、理論と実践の両面から学校づくりと教育人材づくりを追求してまいります。</p>	 <p>教授(副学長) 寺岡 英男 TERAOKA Hideo</p> <p>世界的な教師教育改革の流れの中、新たな発想でつくられた教職大学院。学校と行政と専任スタッフ、そして院生との協働で、意味のある中身をつくっていききたいものです。</p>	 <p>非常勤講師 富永 良史 TOMINAGA Yoshifumi</p> <p>ファシリテーターとして、学びを生み出す対話の在り方を探求しています。人と人が創造的な関係で結ばれるには、どのような考え、態度、スキルが必要なのか、より良い対話は、何を変える力を持ち得るのか、を対話を通じて探していきたいと思っています。</p>
 <p>非常勤講師 中川美津恵 NAKAGAWA Midue</p> <p>実践を語り合い、聴き合い、考え合う中から望ましい授業や学校の姿が見えてきます。年代・校種・職種を越えた交流から新しい視点が生まれ、考えが深まります。教師力の向上を目指して、一緒に学んでまいります。</p>	 <p>教授 二宮 秀夫 NINOMIYA Hideo</p> <p>21世紀を生き抜く新たな学びを支える教師のあり方、学校づくりについて、教職大学院の先生方と協働で探究しています。現場の実践と理論の往還により、学校現場につながる研究にしていきたいと思っています。</p>	 <p>准教授 濱口 由美 HAMAGUCHI Yumi</p> <p>「みる」ことは、出会うこと・理解すること・考えることへの扉であると考え、子どもたちが美術の作品を創造的に「みる」ことのできる授業づくりについて研究しています。「傾聴すること」、「みる」ことに似ていて、学校づくりの鍵であるとも考えています。</p>	 <p>特命助教 藤井 佑介 FUJII Yusuke</p> <p>専門は教育方法学です。特に、協同学習を用いた授業分析・様相解釈を中心に研究を行っています。授業分析を通じた、教育現場との往還的な取組とそれに伴う教師の専門性の向上を目指しています。</p>	 <p>特命准教授 前園 泰徳 MAEZONO Yasunori</p> <p>幸せとは？ 幸せな社会とは？ 生きる力とは？ 私は、環境教育やESD(持続可能な発展のための教育)を通して、それが何か探しています。教職大学院において、「幸せに生きる力を育む学校を探究するプロフェッショナルの教員」の養成に尽力したいと思っています。</p>
 <p>客員教授 松井富美恵 MATSUI Fumie</p> <p>学校現場で障害児教育に携わってきました。教師には子どもの指導に関するきめ細かい視点と進む方向を見て支える広い視点の両方が必要です。その上で、より良い授業づくりや学校づくりを目指して一緒に考えていきたいと思っています。</p>	 <p>教授 松木 健一 MATSUKI Kenichi</p> <p>21世紀の新学校づくりを福井から全国に発信しましょう。専門は教育臨床心理学です。不登校児のサポートや、発達障害児と一緒に学ぶ授業づくりを構築しましょう。</p>	 <p>教授 松田 通彦 MATSUDA Michihiko</p> <p>実践と省察の往還をキーコンセプトに、学校を拠点とした協働実践研究を進めるとともに、21世紀の知識基盤社会において、子どもたちのたくましく生き抜く力を培うべく、幅広い実践力と高い専門性を備えたスクーラーリーダーの育成に努めます。</p>	 <p>非常勤講師 松田 泰俊 MATSUDA Yasutoshi</p> <p>総合学習、生活科学学習を中心に実践研究してきました。子どもの求めや願いを大切に授業の創造を、子どもの学びの事実から求めていきたいと思います。</p>	 <p>教授 森 透 MORI Toru</p> <p>専門は臨床教育学と教育実践史。教職大学院の院生と協働して大学の内外で学び、特に拠点校では実践的な教育課題を共に考え、21世紀の教育の在り方を模索し、お互いに生き生きと成長したいと思っています。</p>
 <p>教授 柳澤 昌一 YANAGISAWA Shoichi</p> <p>新しい世代がともに学びながら、自分たち自身の共同社会のあり方を自分たち自身で考え、支え発展させる力を培う。公教育の課題を、実践を通して問い進めたいと思います。</p>	 <p>特命助教 山口 真希 YAMAGUCHI Maki</p> <p>障害のある子どもの学びに関心を持ちながら、数概念の発達について研究しています。専門は発達心理学ですが、学際的な学びをしていきたいと思っています。教育実践に触れながら一緒に考えさせてもらえることをとても嬉しく思っています。</p>	 <p>客員教授 山下忠五郎 YAMASHITA Chugoro</p> <p>これからの変化の激しい社会を生き抜く子どもたちのためにも、今こそ学校が変わらなければなりません。学校が変わっていくための切り口を一緒に考えていきたいと思っています。</p>	 <p>特命准教授 山野下とよ子 YAMANOYAMA Toyoko</p> <p>金沢市の小学校で算数を中心に実践研究してきました。未来に生きる子ども達を育てる学校現場に、求められる教育のあり方を問い深めていきます。院生やスタッフの方々と協働研究できることを嬉しく思っています。</p>	 <p>非常勤講師 渡辺 本爾 WATANABE Motoji</p> <p>教育は、子どもの将来を決する重要な仕事です。学校・教員の果たす役割について、確かな実践と新たな研究が求められる今、教職大学院で共に学ぶことはすばらしいことだと考えています。</p>

※このほかにも福井大学の多様な分野の教員が協働研究に参加します。

JR福井駅から文京キャンパスへは

- えちぜん鉄道……………福井駅→福大前西福井駅下車
(約10分)
- バス(10番のりば)……………JR福井駅前→福井大学前下車
(約10分)
- タクシー……………JR福井駅から約10分



福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- JRで 大阪・京都ー湖西線経由ー福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車で 大阪・京都<名神>ー米原JCT<北陸>ー福井・福井北・丸岡IC
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間)

名古屋・静岡方面から

- JRで 静岡・名古屋ー米原経由ー福井
(名古屋から新幹線・特急で約1時間40分、特急で約2時間)
- 自動車で 名古屋<名神>ー米原JCT<北陸>ー福井・福井北・丸岡IC
(約2時間30分)

東京方面から

- 飛行機で 東京羽田ー小松空港(1時間)ー福井(連絡バス1時間)
- JRで 東京ー米原経由ー福井(新幹線・特急3時間30分)
- 自動車で 東京<東名・名神>ー米原JCT<北陸>ー福井・福井北・丸岡IC(約7時間)
※高速バスもあります。



お問い合わせ先

福井大学学務部入試課

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL: 0776-27-9927 E-mail: g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

なお、入試情報、各専攻・専修教員の研究分野・研究業績等の詳細は
本学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/> をご覧ください。
平成25年5月発行

教職大学院ホームページの紹介
<http://www.fu-edu.net>
ニュースター No.1~52のバックナンバーを
ご希望の方はお問合せください。